

てん 新聞

05. 7. No. 134
発行所 市岡田社
電話 3-89-5292



あつという間に六月も終わりです。適度に雨と降り、水心配もなさそうです。
六月は、いろんな集り、会合があり多くの事を感心したものでした。
ある集りでは、これから、大歩危、祖谷地帯を世界に向って売り出すという大きな声も聞きました。過疎や過疎化と暗くなる話題が多い中、仮想の夢のある話がある。楽々ともなるし希望もある。が、祖谷の自然、空を守る。ルールもなく、観光客が多勢、果

祖谷の魅力がいっぱい

名産、奥好の心持



「はい」という考えが、観光客をすくめる。特産品やふるさとをどう創出するか。時間が多々かかるとも、ゆえに歩みは遅いといわれています。
「はい」といって、満足度100%のものを、果してとんぼの卵の卵か。あるいは、祖谷に住んでる私達が、この地を愛して、その良さを感じている。度合がどれだけのか。道路が広くなると、便利になつていけれど、本当にそれだけでいいのか。何かを作ると、観光客が来ればいいのか。等々、話しある。よく、課題は少なくないようです。
こんど事を多く感心した六月。自然の移り変わり、生活の営みの中で、祖谷の魅力がいっぱい感心した。また、六月でした。
上の写真は、ゆずかに残るという祖谷

の田んぼが、かつては、稲作もついでに、フにけい、今では、落合の田んぼの内、一ヶ所は、愛媛、川え江、希から、子どを遣か来り、田植をこころいまして、経済的なことを考え、買つて、安いの、耕作を続けたいのは、難しいけれど、このままでは、いけないとおもいます。風景とくは、いいとんです。この価値ある風景を残す智慧を出し、あめないと。また、栗山うの里、作りで動きはじめ、この名産地区に、かかしのバス停が出来ました。(中略) 祖谷に来られたら、ちょっと寄りこめて下さい。いん、ばあちゃんが待つてますよ。その他、木々や植物にも、いろんな花が咲きはじめ、花好き、山好き、お花には、にまきません。名の売れた花とか、カワイイ花とか、多々の人が来ます。それ以外でも、よく見ると美しい、不思議な花がいっぱいあります。自分だけ楽しむのではなく、自分自身、今、新刊にも載せまますが、剣山のキノコやウツタのように、人が来られる。花が迷惑します。写真も載せるのも、小々考えさせられる。と、かく、人気があるから、魅力があるのでは、なく、そこに、あるだけで、魅力があるのでは、ないでしょうか。

